

倉掛新聞

《発行所》
倉掛自治連合会
井原市井原町倉掛
会長／梶谷昌弘

《編集》
倉掛自治連合会
倉掛婦人会
倉掛少年団育成会
消防井原分団第5部

個人自治会費均一化へ

平成十二年度より実施 一月総会で決議

一月九日夜、倉掛自治会総会が開かれ各組自治会長ら約四十名が出席、梶谷自治連合会長が日頃の自治会活動に感謝する挨拶を行い審議に入った。

平成十年度の決算は総額で当初予算とほぼ合致しており、監査報告後の質疑を経て承認された。

消火栓ホースの買換え急ぐ

続いて予算案の審議に移

り、昨年より金額が上回っている防火費関連の提案説明が行われ、協議の結果、

(1)消火栓ホースの買換えを十年から五年に短縮。
(2)消火栓器具箱一式(約六万円)を増設。

以上、二件の防火対策を含む

む予算案が承認された。

一昨年より議論を呼んでいる個人自治会費均一化は法人会費の名称を事業所会費と改める件と共に、来年度以降実施の見通し。

自治会会計は近年、総支出の約57%が消防費等の負担金で、実質自治運営費は20%未満と、意外に少ないことも報告された。

新体制で出初式

消防第5部 部長に矢違さん



一月十七日、井原市消防出初式が行われ、井原分団第五部(矢違敏文部長以下二十名)も寒風を突いて各式典行事などに臨んだ。

分団長に倉掛の山岡弘幸さん

倉掛地区七組の山岡弘幸さんが本年度より井原分団の分団長に就任した。

山岡分団長は「地域を守る消防団の使命は大きい。若い頃の活動を通して人の輪が広がる利点もある」と団員確保へ向け、理解と協力を求めている。

松井さんは本部長

また、倉掛地区十二二組の松井憲司さんも専任本部長として任命され、井原分団牽引者の一人として要職に就いた。第五部の人員は次のとおり。

| | |
|------|------|
| 部長 | 矢違敏文 |
| 副部長 | 宮永一彦 |
| 会計 | 藤原雅彦 |
| 機庫会計 | 藤橋秀樹 |
| 消防班長 | 山岡広海 |
| 厚生班長 | 森兼孝治 |
| 機械班長 | 大坪正和 |
| 水源班長 | 川相晋一 |
| 組長 | 川相幸久 |
| 団員 | 北田広行 |
| " | 竹内健治 |
| " | 柳本兼志 |
| " | 佐藤重徳 |
| " | 川上泰宏 |
| " | 川相謙治 |
| " | 梶井克也 |
| " | 豊池秀之 |
| " | 水川智之 |
| " | 田中秀治 |

第5部団員名簿

本殿老朽化進む

大山宮司が総会で報告

郷社

先の倉掛自治会総会へ出席した郷社の大山秀憲宮司は「本年も地域の皆様には格別の御厚誼を賜りたく宜しくお願い申し上げます」と年頭の挨拶を行った。

防犯灯2基設置

倉掛公園の東側

続いて、郷社本殿の老朽化が著しく進み、修復の必要性に迫られている実情を説明、地域住民へ理解を求めた。

昨年十二月、倉掛公園の東側と十二二組の道路へ防犯灯が各一基ずつ設置された。この付近は以前から「通行人が比較的多いにも

明らかである。

なお、狭い幅員で防災面に問題のある郷社南の道路拡幅構想に伴い、市によって郷社敷地部分を買上げると計画が浮上、郷社側はその売り渡し代金を本殿の修復基金とする目算。

かかわらず暗い」と指摘されていた場所。

公園内へ建てたポール代は自治会の出費となるが、照明設備の約八割は市より補助金が出る。

今後の電気料は十二二組の住民負担となる。

平成11年1月11日午前11時11分11秒発車!



井原鉄道開業

1月11日開業した井原鉄道は「早く乗ってみたい」という利用客で連日賑わっている。同時に市内循環バスもスタート。倉掛地区内へ「J A井原前」「倉掛」「給食センター」の三つの停留所が設けられた。大いに活用したい。

循環バス倉掛を通る



井原大橋南側「給食センター」のバス停

世界ボサノボ技闘格 銀メダルで権選手選

倉掛8組の藤井恵さん(24)快挙



ロシアのカリーニングラード市でサンボ世界選手権が開かれ、参加二十九国の強豪が激戦を繰り広げた。二月号の「月刊スポーツ」は二ページを用いて「美女格闘家」として活躍の恵さんを紹介しており、地元関係者の中で話題になりはじめています。

して地元倉掛出身の藤井恵さんが出場、女子52kg級で銀メダルを獲得した。二月号の「月刊スポーツ」は二ページを用いて「美女格闘家」として活躍の恵さんを紹介しており、地元関係者の中で話題になりはじめています。

家族で十六段!

恵さんは藤井接骨院・藤井邦昭院長の長女。小学生の頃から柔道を習い始め、井原中学、夙川学院高校、国士舘大学と柔道のエリート街道を歩み、その道十三年。因みに柔道一家の藤井さん宅は、講道館七段の邦昭院長を筆頭に長男響さん

三段、恵さん三段、次男大覚さん三段と、合わせて実に十六段にもなる。現在サンボの練習は東京都心の職場近くにあるスポーツ会館で取り組んでおり持ち前の多彩な技と粘り強さで、昨年は女子56kg級全日本チャンピオンの座を射止めた。

この度の世界選手権の男子62kg級に出場した若林次郎選手は帰国後「藤井選手は決勝で世界チャンピオンのコステレワ選手(ロシア)にこそ惜敗したが、素早い大内刈りからしっかり押さえ込んで逆転勝ちをした準決勝の試合などは素晴らしい」と恵さんの試合ぶりを高く評価している。

◆ 行事予定 ◆

- 2/7 倉掛少年団レクリエーション
- 2/13 古紙回収(倉掛は市役所へ)
- 2/20 自治連合会防犯パトロール
- 3/7 倉掛少年団入退団式
- 3/14 経ヶ丸ファミリーマラソン
- 3/20 自治連合会防犯パトロール

郷社の歴史

ことしより数をかそえて君がため八千代をつまむ

◇ くらかきの山 ◇

郷社境内の歌碑に刻まれている和歌である。詠人は内蔵権頭備中国主基善滋朝臣為政で、平安朝の天皇に仕える高級官吏のお公卿さんである。時と同じ後一條天皇の御代長和五年(一一〇一六年)十一月の大嘗会の和歌集に載せられている。いったいこの歌は何を詠んだのだろうか。主基というのは天皇に貢ぐための米を作る稲田の管理を司る朝廷

直属の役所、その長官を主基と云った。

稲は水草でありながら水はけが良くないと美味しい米は出来ない。倉垣(倉掛)のデルタは砂地で、吉井川(小田川)の水は豊富で水利の便は申し分ない。特別味のよい上々米で評判であった。人々は申し合わせて天皇に献上した。後一條天皇は殊の外お気に召され、勅令によって倉垣の里を齊田と定められ、備中国主基を置かれる事になった。

「今年から天皇のため千代八千代まで米作りに励み

その2 説の氏夫国原篠 元芳井教育長

美味しい米を山の様にこの倉垣の里に積み重ねてほしいものだ」と善滋為政長官が祝辞と共に住民を励ました。この和歌は大嘗会で天皇に捧げられた。朝廷において天皇は毎年齊田で出来たその年の新穀を神に供え神と一緒に会食し五穀の豊作を祈る祭典が行われる。これを大嘗祭という。

とここでこの歌の下の句「くらかきの山」について諸説があり、山の無い所に山とはどううした事か、「くらかきの里」の誤りであろうという説。昔は小高い山であったのだら



■史談いばら掲載の篠原国夫氏(芳井町・九十 四歳)の原稿を抜粋。

うという説。いやそうではなく……ともあれ郷社の境内に立つこの歌碑は九八三年前の井原発祥の姿をいとも鮮やかに物語っている。誠に貴重な金字塔と云わねばなるまい。

倉掛男子ソフトボール同好会が見事優勝

井原公民館主催球技大会

昨年十一月に開かれた井原公民館主催の地区対抗球技大会で、倉掛地区の男子ソフトボール同好会が見事優勝、女子のバレーボール同好会も準優勝と、輝かしい成績をおさめた。

ソフトボールで三試合を投げ抜いた川相益一投手は「さすがにしんどかった」と翌日から筋肉痛を訴え苦笑。攻守に冴えを見せた個人技と、チームを勢いに乗せた選手達のハートが鮮やかな勝利を呼び込んだ。

女子バレーボール同好会は大会前に回覧板で選手を募集するなど、参加自体を第一目標に掲げ苦戦覚悟で臨んだかに見えたが、いざ蓋を開けてみると決勝進出を果たす快進撃だった。

女子バレーボール同好会も準優勝

